

「持続可能な観光について考えよう」の授業づくり

—令和7年度版教科書を用いた豊かな学びの創造—

同志社大学 教育支援機構 免許資格課程センター 教授 柳澤 彰紀

1 はじめに

令和5年、人口約140万の京都市に5000万を超える観光客が訪れました^{*1}。宿泊客数は、延べ人数で日本人及び外国人ともに約1200万人でした^{*1}。京都は、住民の生活の質や訪問者の体験の質にマイナスの影響が出るオーバーツーリズムの問題に直面しています。この問題は京都以外の場所でも発生していますし、生徒は将来、観光客として、あるいは観光客を受け入れる住民側として、この問題に向き合うかもしれませんので、今回の学習課題に取り組む教育的意義は、とても大きいものがあるといえます。

2 授業の構成・展開

1【観光客の立場】京都の魅力を見つけよう

〈学習活動①〉 令和7年度版『中学校社会科地図図』（以下、地図帳）p.113~114京都市中心部の地図から各自行ってみたい所を三つ程度選びます。クラスで集計をし、ランキングをして

もよいでしょう。次に、選んだ場所を巡る行程を考えます。地図帳の縮尺から距離感が分かれば、移動手段が考えやすくなります。地図帳には、地下鉄を含む鉄道が書いてありますので、この学習で生徒は、他の大都市に比べて鉄道が意外と少ないことに気付きます。

〈学習活動②〉 観光客は、衣食住においても、日常生活では味わえない体験を楽しんでいます。そこで、「教科書から、衣食住にかかわる観光体験を探そう」と問いかけます。着物を着ての京都観光（令和7年度版『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）p.201⁵）は「衣」、京都らしいお菓子を味わうこと（p.214¹¹）は「食」、町家スタイルのホテルでの宿泊（p.215⁴）は「住」での京都の魅力です。また、「食」には、お茶や京漬物などのお土産の購入も関係しています。

2【住民の立場】京都に暮らす人々の努力を調べよう

〈学習活動③〉 教科書p.215³にある景観政策の目的は何であるのか、本時までの授業を振り返り、的確な言葉で表します。最も端的な言葉は「古都の歴史と伝統を後世に受け継いでいく

ため」（p.209本文）ですが、既習事項と関連付けて思考を促すことは、学びの連続性の確保につながります。

〈学習活動④〉 教科書「京都に暮らす人の話①」（p.215）から、町家の維持の難しさに生徒は気付きます。次に、教科書p.214のQRコードからNHK for School「景観保全の取り組み・京町家」（約2分）を視聴し、住民が共同して景観の保全に努めてきたことが京都のまちづくりの特徴であることを把握します。

〈学習活動⑤〉 教科書「京都に暮らす人の話②」（p.215）にある、「う



図1 令和7年度版『社会科 中学生の地理』p.214~215



図2 令和7年度版『社会科 中学生の地理』p.215写真5に吹き出しを付けた例

れしさ半分、苦勞が半分」の内容を具体的に書き出す中で、観光客を受け入れる住民の率直な思いを浮かび上がらせておきます。

3 複数の立場から持続可能な観光に向けた取り組みを考えよう

〈学習活動⑥〉 まず、次の統計資料の読み取りをします。

【京都市民の意識調査（令和5年）】^{*2}

- ・観光客らが市にもたらす影響のうち、次のことで「迷惑をする人がいる」と思う人の割合
- 観光地やその周辺の混雑…90.8%
- 路線バス等の公共交通機関の混雑…90.2%
- 観光客のマナー違反…86.8%

【観光客への京都観光に係る調査（令和5年）】^{*1}

- ・日本人、外国人とともに、残念度の1位は「人が多い・混雑」
- ・「地域の生活を守りながら観光したい」とする日本人は56.7%、外国人は60.8%

次に、学習活動①からの学びを総合させ、教科書p.2155に、住民、日本人観光客、外国人観光客がいるとして吹き出しを付け（図2）、それぞれの思いを考え、記入します。

〈学習活動⑦〉 学習活動⑥を受けて、混雑の解消に焦点を当てた学習を行います。

生徒は自由な発想で取り組みを考え、他者に説明しますが、京都という地域の特徴を踏まえているかという視点で対話的に学習を進めます。例えば、地下鉄の延伸というアイデアには、「地中に遺跡の多い京都では時間や経費の面で条件が厳しくはないか」と問いかけます。

なお、表は、京都市観光協会の主な取り組みを筆者がまとめたものです。

〈学習活動⑧〉 多くの住民は、観光客のマナー違反を京都観光のマイナス面と考えています。舞妓への付きまとい、私道への進入など、

混雑解消の観点	具体的な主な取り組み
手ぶら観光の推進	京都駅から宿泊施設まで荷物を運ぶサービス 臨時の手荷物預かり所を設置
混雑可視化	人気観光地のライブカメラ映像を配信 人気観光地の時間帯別・天気別の混雑予想を配信
場所の分散化	ガイドブックにはない隠れた魅力の情報を発信 新たな観光コンテンツを作る活動を支援
時間の分散化	魅力的な朝と夜の観光情報を発信 ライトアップ事業を行う取り組みを支援

表 京都市観光協会の混雑解消の主な取り組み（令和6年現在、筆者作成）
出典：京都市観光協会<https://www.kyokanko.or.jp/project/sustainable/>

メディアが取り上げる内容から、それは外国人のマナー違反だと推察できます。授業では、観光による経済効果と住民の生活を守りながらの観光を考える外国人が日本人と同程度いることから、外国人観光客の抑制は現実的ではないことを理解できるようにします。そのうえで、例えば、表の具体的取り組みの効果を議論します。

「限られた補助金を何に使うか」といった視点が出てくれば、希少性という見方・考え方を働かせる経済学習の基盤につながります。

〈学習活動⑨〉 教科書p.215の最下段に書いてある振り返りを行い、学習の成果を実感できるようにします。

3 おわりに

この授業では、教科書の資料を十分に使いこなし、場所（京都はどのような場所か）と地域の特徴（京都の実情を踏まえ、オーバーツーリズム問題にどう取り組むべきか）という地理的な見方・考え方を働かせて、生徒を深い学びに誘います。しかしながら、学習課題の解決は容易ではなく、京都を含む近畿圏として混雑緩和を考える発想が今後必要なのかもしれません。

また、本時の内容は、京都の魅力を生み出す観光産業の担い手、町家の改修を行う技術者、行政職などさまざまな人々の存在を前提としています。授業中にこれらの立場の人の持続可能な観光に向けた取り組みについて意見が出れば、ぜひとも取り上げたいものです。

〈注〉

- ※1 京都市産業観光局「京都観光総合調査 令和5（2023）年1月～12月」https://www.kyokanko.or.jp/wp/wp-content/uploads/kyoto_tourism_stat_2023.pdf
- ※2 京都市産業観光局観光MICE推進室「令和5年 京都観光に関する市民意識調査」<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/cmsfiles/contents/0000323/323844/sassi.pdf>